（様式１）

１　自己評価及び外部評価結果

作成日　　平成　26年　2月　19日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492500131		
法人名	医療法人　好縁会		
事業所名	グループホームふれあい八本松		
所在地	広島県東広島市八本松東５丁目８番３４号 （電話）082-427-3339		
自己評価作成日	平成26年1月20日	評価結果市町受理日	

※　事業所の基本情報は，介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先ＵＲＬ	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3492500131-00&PrefCd=34&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年2月13日

【事業所が特に力を入れている点，アピールしたい点（事業所記入）】

お一人おひとりの普段の生活の中では得られることの無い満足感というものを、得ることが出来る瞬間・皆で分かち合える個別ケアを、実施していくことを積み重ねています。具体的には、大衆演劇を見に行くことや、ドッグセラピーで犬たちと触れ合える時を持つこと・ご家族も交えた皆で外で外食する機会を持つこと等行っています。
そういった“その人らしい生活作り”を基本にし、年間事業計画のもとで実践しています。
小規模の施設の施設の良さである柔軟な機動力を発揮し、いろいろな行事を行うことを積極的にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

運営母体は医療法人であり、西条地区・広島市内地区に数多くのデイサービス・有料老人ホームや訪問介護等を運営する一大グループとして組織化されている。それだけに研修制度や教育制度が完備・充実しており、法人独自の『マイスター制度』を設定するなど最新の知識・技術を習得する機会が全職員に与えられており、やりがいのある職場環境となっている。　事業所に於いても職員皆の話合いの下、行事担当や役割分担が決められており、それを全うする為、それぞれが自分なりに目標を立て皆と助け合いながら達成に向けチャレンジしている。　その姿は利用者の目にも　”職員全員が活き活きとしている”と映り好印象を与えている。　職員のやる気・達成感・満足感は好循環し、利用者や家族への接遇に反映され「笑顔・思いやり・優しさ」の溢れたサービスが展開され関係者から支持されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	**○理念の共有と実践** 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員は，その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念のもと、事業所の理念と方針を作成し、朝の申し送りの時に唱和することで職員全員の共通基盤になるように努めている。	『何があってもここが我が家』これはスタッフ皆で知恵を出し合い、全員参加により作成された『事業所独自の理念』の方針の一つである。　それだけに自分たちの理念として共有し実践にも活かされている。また、チャレンジシート（個人目標）や業務評価での面接を通しその実践度合いが確認できる一連の仕組みが構築されている。	
2	2	**○事業所と地域とのつきあい** 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の保育所との交流事業・子供神輿（地域祭り）の関わりやボランティア受け入れそして運営推進会議に地域代表の方の出席をして頂いて、開かれた施設づくりを行っている。また、地域清掃にも参加し、地域の方との交流にも努めている。	事業所での「父の日・母の日」には地域のボランティアを招き踊りを楽しみ、子供神楽ではお菓子を手渡しお礼の手紙をもらう、更に地域の保育所との交流を計画し、それを実現させるなど積極的な取り組みが伺える。　また地域清掃に参加したり、ご近所より野菜の苗をもらうなど近隣との交流も深まりつつある。	
3		**○事業所の力を活かした地域貢献** 事業所は，実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を，地域の人々に向けて活かしている。	具体的な地域での介護者教室の開催といったものは、まだ行えていない。ボランティアの参加して頂けた交流事業の合間で、相談や疑問にいつでも答えれる姿勢を持ち続けている。機会が出来れば地域の方に介護教室といったものを開いていきたい。		
4	3	**○運営推進会議を活かした取組み** 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で評価の報告や、２か月ごとの行事などの取組状況を報告し、少しでも当事業所のサービスの質の向上につなげれるように考え実行している。また、そこで出た案や有効な意見を、現場の職員に伝え反映している。	会議は地区住民・家族また行政代表の出席のもと事業所の現状報告、行事報告等の他、質疑応答が行われ「敬老会用のテントを地域から借りられた」等の一定の成果が見られる。　欲を言えば地域の民生委員・包括センターからの参加も求め、多くのメンバーによる多岐な意見が業務改善・サービス向上に活かされることを期待します。	
5	4	**○市町との連携** 市町担当者と日頃から連絡を密に取り，事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議への出席いただいたときに疑問に思ったこと等を質問させて頂き、お答えいただいたり、新しい情報を提供して頂いて、情報の交換共有をさせていただいている。また、日頃においても電話や訪問によって運営上疑問に思ったこと等相談させていただいている。	運営推進会議にほぼ毎回、健康保険課担当者の参加があり、普段より顔馴染みの関係作りが出来ている。　また更新書類提出等、月に１回程度、役所に出かけることがあり、都度、挨拶かたがた健康保険課に顔をだし、普段より気に掛かっていることは質問や確認し協力関係が深まるよう努められている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	**○身体拘束をしないケアの実践** 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の開錠するための工夫として、ブザーを設置したり、逆にスタッフと一緒に散歩に出かけてみたりしている。また、『身体拘束に当たる行為に何が当たるか』を常に皆で意識して、小さな拘束もなくしていく努力もしている。	「入居者の気持ちが高ぶった時、動きを抑え込む、徘徊があるとき無理やり進路を塞ぐ」等、日常おこり得る場面を想定し『このような行為が身体拘束に当たるのでは』と折に触れ皆で確認・注意し合っている。　社内研修制度も充実しており、身体拘束についても繰り返し徹底が計られ、全員で身体拘束のないケアを実践している。	
7		**○虐待の防止の徹底** 管理者や職員は，高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	研修会などへ積極的に参加し、その後、事業所において勉強会、伝達研修等行うようにしている。また、ヒヤリハットなどを通して、小さなことでも見過ごさない体制づくりをしている。		
8		**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は，日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，それらを活用できるよう支援している。	現在、そういった制度の知識追及に努めようとしているところではあるが、まだまだ十分とは言えない。成年後見制度については、それが必要そうな方はいらっしゃらないかどうかと見つめて、ご家族・ご本人へ情報提供していく意識を持ち続けている。		
9		**○契約に関する説明と納得** 契約の締結，解約又は改定等の際は，利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約の時などは、一緒の机でしっかり説明の時間を設け、質問をお受けするようにし、同意を得ている。その場で答えられない質問があったとすると、出来るだけ速やかにお答えするようにしている。		
10	6	**○運営に関する利用者，家族等意見の反映** 利用者や家族等が意見，要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	利用者が話しやすいよう、利用者目線で傾聴に努めている。事業所に苦情処理担当を設けたり、電話や面会時にご要望をいただき、速やかに朝礼等で全職員に通達している。ミーティングを通して話し合い、改善している。	家族の意見・要望は運営推進会議・家族会の場での発言もあるが主には面会時の会話の中で寄せられることが多い。　スタッフから近況等を話しかけ、家族が要望等を切り出し易い雰囲気作りを心掛けている。「玄関に当日のスタッフの出勤者名がわかる名札の掲示を！」も家族から寄せられた要望を取り入れ実施された。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	主にミーテイング又は、通常時でも、出来るだけ職員の想いを提案いただき、必要性の高さを見極めつつ、事業運営に反映していくようにしている。	スタッフミーティングは月一回の頻度で必要に応じて随時、行われている。　職員の提案により早朝時間の業務集中を緩和する為、早出勤務の時間調整が試みられた。また各種の委員会や行事担当者が決められており、業務改善の積極的な意見が出されている。　地区の保育園児との交流や花火大会等もスタッフの発案により実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は，管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，給与水準，労働時間，やりがいなど，各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	チャレンジシートで年間を通して、自らが目指す目標を立てて、その達成度　又は、能力・実行考課表を通して成果・それに応じた評価を行い、職場環境・条件の整備に努めている。また、法人内のマイスター試験の実施によって個別評価の実績が直結できる仕組みも設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は，管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしていくことを進めている。	能力・実行考課を自己評価とともに、それぞれ評価して把握している。また、法人内研修の充実により、外部研修を含めて、研修受講の機会の確保が出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は，管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取組みをしている。	西条グループホームと合同で、介護技術の研修を毎月一回行い、相互の資質の向上へつながっていくよう努めている。		
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，本人が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	職員の中で担当者を決め、密接にかかわってご本人との馴染の関係を作り、広げれるようにしている。また、ご家族からもできるだけ詳しい情報をお聞きしていって、普段通りの日常生活に、早期に至れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，家族等が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，関係づくりに努めている。	管理者を中心として、又は、担当者が窓口となって不安の解消に至れるようにご家族の声を聞く姿勢を常にとっている。具体的には、明るいあいさつから人間関係づくりを確たるものにしていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で，本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	契約前の事前訪問の時からを含めて、まずは直ぐに必要性があるものは何かをご家族を含めて話をして見つけていく。必要があれば柔軟に他サービスの利用もできる範囲で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は，本人を介護される一方の立場に置かず，暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	アセスメントシートを通して情報収集し、ご本人がまず一番したいことの実現を最重要項目の一つととらえ、その達成による笑顔によって他利用者と具体的な話題が増えるように支援している。 ご本人の出来ることに応じて、野菜の皮むきや下ごしらえなどを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は，家族を支援される一方の立場に置かず，本人と家族の絆を大切にしながら，共に本人を支えていく関係を築いている。	当事業所の行事に出来るだけ一緒に参加して頂きながら、ご本人・ご家族そしてスタッフとの関係がより深めれる機会を設け効果が出てきている。もちろん面会時や電話連絡・毎月のお手紙の時にも出来るだけご本人の事が伝わることが出来るように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	個別に実際に計画を立てて、その場などに連れ出して親交を温めていただいている。今後もそういた機会を繰り返し実現していきたい。昔からの友人・ご親戚の面会等の時には、出来るだけお礼の手紙を送らさせていただいたりしている。	昔馴染みの友人が訪ねてくる利用者もあり、訪問し易い雰囲気作りを徹底し、二人の関係が継続するよう応援されている。 「懐かしい自宅に帰ってみたい」普段のなにげない会話のつみかさねで本人の強い思いを捉え、それを叶える支援が強力に推進されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
21		**○利用者同士の関係の支援** 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるような支援に努めている。	出来るだけ、ご本人の良い場面を他利用者に見ていただけることに配慮して関わっている。隣り合って座る席順も、そういった関係づくりを意識しつつ行っている。		
22		**○関係を断ち切らない取組み** サービス利用（契約）が終了しても，これまでの関係性を大切にしながら，必要に応じて本人・家族の経過をフォローし，相談や支援に努めている。	利用が終了した方でも、面会できる機会がある方には、出来るだけお会いさせていただいている。必要に応じて情報提供もさせていただいている。		
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	ご本人の『幸せづくり計画』という考え方を根底において、ご本人の立場に立って“夢”の実現を支援している。	家族の面会時、会話の中の本人に関する昔話にヒントがあり、その情報を大切にしている。　お茶タイムではスタッフも利用者に寄り添いゆっくりと会話を楽しみ、利用者の気持ちを読み取るよう努めている。また会話の一部をそのまま記録しスタッフ共有の情報として積み重ね、それらを『幸せ作り計画』に活かしている。	
24		**○これまでの暮らしの把握** 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族からの情報やご本人様からの情報を元に、アセスメントを積み重ねられるように担当者に書き加える指導をしている。		
25		**○暮らしの現状の把握** 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の申し送りや定期的なモニタリングを通して、現状の把握に努めている。また、各担当者が中心となったアセスメントでできることとしている事の見極めもするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイデアを反映し，現状に即した介護計画を作成している。	毎月のモニタリングに改めていくことで、よりきめ細やかな現状の把握をしていくようにしている。それによって、直近の様子の把握が出来、変更プランの必要性が把握できるようになってきている。	入居者１人ひとりに見守り担当を決めており、各担当者が入居者の日々の行動を記録している。　介護計画は担当者により作成されたモニタリングを基に担当者と管理者で原案を作成し、それを担当者会議に計りその他の情報も加え皆で調整している。またそれは家族にも提示し、承認されたものを最終決定分としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録の裏面を利用し、個別記録を出来るだけ詳しく記録するようにしている。そうすることで、モニタリングやケアプランに反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況，その時々に生まれるニーズに対応して，既存のサービスに捉われない，柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	当事業所では、実現することの難しい場面作りを、外の場を使っていくことで、実現している。ご家族・ご本人を交えた忘年会など今後も継続して行きたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し，本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご家族参加の行事はもとより、地域の保育所との交流・地域の祭り（子供神輿）・ボランティアの催しなどご本人が本当に喜んでいただけることを地域の方とともに行ってきている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は，本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるように支援している。	母体の法人クリニックと２４時間連携を取っている。毎週一回の往診を受けていただいている。Ｄｒからお身体の状態等について、ご家族が、医院へ受診してお聞きして頂けるようにしている。臨機応変に必要性の高い時には、往診時にご家族とお話しさせていただいている。	母体が医療法人なだけに巡回による定期的な医師の診断や看護師の見守りがあり、安心で充実した健康管理が行われている。また本人・家族が皮膚科や歯科等の専門医や医療センターを希望する場合は問題なく受診してもらっているが、緊急時を除いては家族対応としている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は，日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを，職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し，個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診表・メールによる連絡　又は月に一回行われる医療連携会議などを通してきめ細やかな連携が取れるようにしている。医療連携加算を行っており、より密度の高い支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際，安心して治療できるように，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は，そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時付添いで一緒に行くことで、その場できめ細かい情報伝達をさせていただいている。面会も行い、現状把握と退院時の受け入れについて病院関係者や家族と積極的に連絡を取るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について，早い段階から本人・家族等と話し合いを行い，事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し，地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師、看護師、ご家族、スタッフ等でカンファレンスを持ち、説明、情報の共有、今後の方針など話し合い、支援できるようにしている。	入居時に本人・ご家族に重度化や終末期に対する事業所としての方針を事前説明している。　また重度化した場合、直前説明として医師・看護師の意見を基に事業所として行える内容を説明し、本人・家族の意向に沿った対応がされている。　過去に本人・家族の希望により事業所でのターミナルケアを行った実例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて，全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い，実践力を身に付けている。	緊急時についての研修や具体的な誤嚥などの発生時の対応研修を定時的に行うようにしている。また、急変時や事故時に夜間待機ナースに連絡が取れるシステムを導入している。		
35	13	○災害対策 火災や地震，水害等の災害時に，昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに，地域との協力体制を築いている。	消防訓練などを通して非常時の対応の仕方を定期的に学ぶようにしている。地域との連携については少しでも具体的にできる関係になるよう、関係づくりを中心にアプローチしている。	この事業所は平屋建てでリビングは広い庭に面し、ガラス戸を開けると掃き出しになっており、入居者が自力ででも外へ避難し易い利点がある。　また、非常出口は火災ベルと連動し自動解錠するシステムが採用されている。　運営推進会議やご近所には万が一の応援協力の要請をしており、その実現に向けて調整中である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し，誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人様の尊厳を第一とし、信頼関係をより強固なものに出来るように対応している。具体的には、居室内はプライバシー空間を意識し、ノックをさせていただいてからの入室を行っている。	利用者の人格を傷つけないよう丁寧な言葉遣いが基本であるが敬語のみではなく、下の名前にさん付けをして呼びかけるなど利用者個々に合わせた親しみやすい表現も大切にしている。　また「立ったまま見下ろす形で話すのは極力さける、目線を合わせて話す」等、誇りや人格を傷つけない細やかな心配りがされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり，自己決定できるように働きかけている。	担当者をお一人おひとりに決めていて、その親しみのある関係づくりのなかで、自らの意思をしっかり表出できる環境づくりに配慮させていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	全員が必ず同じ時間に食べなければならないといった形はとらずご本人のご希望の時間に合わせて食事を摂っていただいたりしている。しかし、出来るだけ入所者同士の関係づくりもあって、標準の時間を決め、その時間に食べて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人のご家庭から持ってこられているタンスの中の衣服でご本人の希望に沿った衣服を選んでいただいて、着ていただくようにしている。また、理髪店に依頼し、理髪の出張サービスをお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	ご本人の状態等にあった食事の提供をしていて、ご本人の出来ることを出来るだけ自然な形でして頂いて、少しでも自らが調理した食事を食べる充実感を味わっていただけるよう配慮している。	食事作りはスタッフが交代で行っているが、食材の皮むきやキザミ等の利用者のできる下ごしらえは皆でやっている。　メニューは事前に考えられているが、時には菜園で育てた野菜を使ったり行事食を作ったり楽しい食事が心掛けられている。　また月２回の栄養士の指導もあり、栄養バランスも重視した食事が準備されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士の栄養指導も受けつつ、行っている。水分量の状況記録も一目で一日の水分摂取量がわかる記録をしていくことで現在の状況確認ができやすくしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとり、食後にリビング内にある洗面所で口腔衛生を行っていて、介助が必要な方にはそれに応じたケアを行っている。かかりつけ医の歯科とも連携をとり、より健康的な口腔内になるよう援助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご本人の状態に応じて、できるだけオムツの状態からの脱出が出来るように考え行っている。昼間だけ、より軽快な形にする援助もしている。最小の排泄介助、そして自立に向けて取り組んでいる。	夜間はオムツの利用者も気持ち良く過ごしてもらう様、昼間はリハビリパンツに変えることを基本としている。　状態に応じてリハビリパンツから安心パンツに切換える、定期的にトイレ誘導する等、トイレでの自立排泄に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	出来るだけ薬に頼らない自然排泄になるように、飲食物の工夫・運動（レク）・時間帯など環境に重視して対応している。医師・看護師・管理栄養士とも相談しながら、食物繊維の多い献立を考えたり、水分摂取量を増やす工夫を考えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	標準の時間としては、午後２時頃から午後４時頃ぐらいの対応をさせていただいているが、ご本人の希望があれば随時対応を検討し、実行していく。原則３日に一回であるが、状況に応じて、１日おきでも、続いても、入浴するようにしている。	入浴回数や時間帯は決めてはいるが、入浴時間帯に落ち着かない状態の利用者には夕食後に声かけする、入浴介助は同姓でないと嫌がる等についても本人の状態・希望に合わせた柔軟な対応がされている。　時にはゆず湯や入浴剤を使用するなど楽しく入浴できることも気配りされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，休息したり，安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人が安心して眠れる環境作りとして、静かな個室環境と、ご本人の希望があればリビングでもソファー等で休んで頂いている。ご本人にとって安心して安らげる環境を、個々に考え対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師からの説明や処方箋を通して情報を収集し、服薬によると思われる異変については、看護師とも情報交換することで適正な支援に努めている。		
48		○役割，楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，嗜好品，楽しみごと，気分転換等の支援をしている。	お一人おひとりにあった役割を、今までの生活歴や普段の様子の中から見つけ出している。また、楽しみを引き出せるようにご本人やご家族との会話の中からの情報収集に気を付けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援に努めている。また，普段は行けないような場所でも，本人の希望を把握し，家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的に買い物や散歩・ドライブに出かけたりしている。また、ご本人が普段いけない場所にお連れすることを、しっかり充実した内容で行えるよう、計画を立てて行っている。	時候・天候の良い日にはほぼ毎日、近隣を１０分程度の散歩をしている。　車で食材等の買い物に行く時も希望する利用者は一緒に出かけている。　また、月２～３回のドライブの他、大衆演劇や和太鼓の観劇を楽しんだり、花見や紅葉狩り等の時節に合わせた外出支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	基本として、ご本人持ちの金銭管理は、行っていないが、立替えでご本人の希望の買い物などを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望に沿って、すぐに電話をかけたり手紙を書く支援をしている。ご本人の孤独感の解消に最善の努力をこれからもしていく。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）が，利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音，光，色，広さ，温度など）がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングには背丈より大きい掃出しの大きな窓が並んでおり、いつも明るい日差しを取り入れられる環境にある。空調管理もしっかり行っているので、居心地の良い環境であるよう配慮している。	リビングは余分なものが置かれてなく整理整頓が行き届き清潔で明るい。　また乾燥を防ぐ為、数台の加湿器が設置され、湿度は確認忘れを防ぐ為、記録されている。椅子は４段階の高さが揃えられ、更にテーブルは台形型で自由な組み合わせが可能で利用者の状態や状況に合わせ使い分けられ、快適で楽しい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	出来るだけ、気のあう方同士で隣り合って座って頂けるよう席順に配慮している。また、共用空間の中でも他者と離れた空間が確保できるよう、スタッフルームへの出入りも制限をかけないよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	長年使い慣れたタンスやソファーを実家等から入れていただいて、少しでもより家庭的な環境に近づけれるように、ご家族にご協力の相談も行わせて頂いている。	ベットについては従来は持ち込んでもらっていたが「ベッドは事業所の備え付け設備として完備すべきでは！」との経営判断により現在は順次、切り替えつつある。その他のタンスや椅子の小型家具や寝具・クッション等の小物備品については使い慣れたものを持ち込んでもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来る移乗動作を大切に考え、お一人おひとりにあった介助方法が統一してできるよう、ご本人にあった椅子や机を使うようにしている。トイレも移乗動作ができやすい特殊テーブルの設置が出来ている。		

Ⅴ　アウトカム項目			
56	職員は，利用者の思いや願い，暮らし方の意向を掴んでいる。		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が，一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は，一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は，職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は，戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は，健康管理や医療面，安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は，その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により，安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は，家族が困っていること，不安なこと，求めていることをよく聴いており，信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は，活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

（様式２）

２　目標達成計画

事業所名	グループホームふれあい八本松
作成日	平成26年3月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	地域との結びつきをより多岐にわたるよう、時々は民生委員・地域包括支援センターからの参加を求めたい。	より多岐な方の参加により内容にバラエティをつけられるようにしていく。	年２回程度でも参加をお願いし、サービスの向上につなげたい。	平成26年4月～平成27年3月
2	35	災害時における応援体制・及び緊急時に早急に駆けつけるシステムの充実。	いかなる場合でも、早急に周りの職員も含めた方々が集まり対応できるようにする。	近隣の方々との協力体制をしっかり構築していくことを第一とする。	平成26年4月～平成27年3月
3					
4					
5					
6					
7					

注１）項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は，行を追加すること。